

平成25年度（平成24年度対象）

新居浜市教育委員会

点検・評価報告書

平成25年11月

新居浜市教育委員会

目 次

はじめに	1
第1章 点検・評価結果	
平成24年度 教育基本方針	4
平成25年度教育委員会点検・評価対象選定事業一覧表	5
事務事業等の自己点検評価票（10事業/平成24年度事業）	6
学識経験者の意見及び評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性	
参考資料	
平成24年度教育委員会自己点検・評価事務事業等一覧表（79事業）	26
第2章 教育委員会活動報告	
平成24年度の教育委員会の活動状況	41
参考資料	
組織図・職員数	45
地方教育行政の組織及び運営に関する法律抜粋	46

はじめに

1 趣旨

当教育委員会では、毎年度定めた教育基本方針に基づき市長事務部局、関係機関等と十分な協議を重ね、具体的な施策及び事業を定め、取り組んでおります。

これまでも教育委員会の取組は、「新居浜市の教育」の発行、ホームページ等により市民の皆様には積極的に情報公開をしてまいりましたが、平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正（平成20年4月1日施行）され、全ての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされました。

そこで、当教育委員会でも、法の趣旨にのっとり、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様への説明責任を果たすため点検・評価を行い、報告書にまとめました。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、平成24年度に実施した施策・事業のうち、各課及び各教育機関における主な施策・事業（79事業）とし、そのうち新たに取り組んだ事業、前年度から取組を改善した事業等を中心に選定した10事業について、教育に関し学識経験を有する方から御意見、御助言を頂いております。

また、平成24年度に開催した教育委員会の会議その他活動実績を記載しました。

3 点検・評価の方法

(1) 選定した10事業の点検・評価に当たっては、「事務事業等の自己点検評価票」に基づき、成果、結果、執行状況等を明らかにするとともに、問題点を分析し、今後の方向性を示します。

なお、自己評価は、施策・事業ごとに成果指標の達成度をA～Eの5段階で行いました。

自己評価基準

段 階	内 容
A	目標を大きく上回る成果が上がった
B	目標を上回る成果が上がった
C	目標どおりの成果が上がった
D	目標を下回る成果にとどまった
E	目標を大きく下回る成果にとどまった

- (2) 点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する方から御意見、御助言等を頂きました。

御意見を頂いた方々は、次のとおりです。

(敬称略 五十音順)

役 職 名	氏 名
元新居浜市PTA連合会会長	伊 藤 公 一
元新居浜市教育委員会委員長	小 野 トヨミ
ボランティアグループ 新居浜市 おもちゃ図書館 きしゃポップ代表	松 山 明 子

4 点検・評価結果の構成

- (1) 平成24年度教育基本方針を記載しています。
- (2) 平成24年度実施事業の中から新たに取り組んだ事業、前年度から取組を改善した事業等を中心に選定した10事業について「事務事業等の自己点検評価票」を作成し、教育に関し学識経験を有する方から御意見、御助言を頂き記載しています。
- また、教育委員会の事務事業全般に関する御意見等も記載しています。
- (3) 自己評価、学識経験を有する方からの御意見等を参考に、評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性を記載しています。
- (4) 参考資料として、各課所において実施した平成24年度事業の概要、内容、自己評価等を記載しています。
- (5) 平成24年度に開催した教育委員会の会議その他活動実績を記載しました。

第1章

点検・評価結果

平成24年度 教育基本方針

すべての市民が、健康で心豊かな人間性を自ら養い、個性を発揮できる教育の充実に努める。

- 1 誰もが学べる環境を整備し、生涯にわたる学習機会を提供する。
- 2 学びの成果を活かし、よりよい地域づくりを推進する。
- 3 家庭・学校・地域の連携の下、子どもたちの健全な育成を支える。
- 4 基本的な生活習慣や社会規範を身につける温かい家庭教育を進める。
- 5 開かれた特色ある学校づくりを推進し、「生きる力」を育む。
- 6 国際化、情報化、環境、防災、食育等現代的課題に対応する教育を進める。
- 7 子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実に努める。
- 8 お互いを尊重し認め合う人権・同和教育を推進する。
- 9 自然を守り育て、郷土を学び愛する教育を進める。
- 10 伝統文化を保存・継承するとともに、芸術文化の香るまちづくりを推進する。
- 11 スポーツの振興を図り、市民の健康増進、体力向上に努める。

平成25年度教育委員会点検・評価対象選定事業一覧表（平成24年度事業）

担当課所	番号	事務事業名	自己評価	成果指標
社会教育課	1	学校支援地域本部推進事業	C	ボランティア活動参加者数
	2	新しい公民館創造プロジェクト事業	C	プロジェクト事業参加者数
学校教育課	3	社会科副読本発行費	B	社会科副読本の発行
	4	小学校耐震補強対策事業	C	小学校施設の耐震化率
	5	中学校耐震補強対策事業	C	中学校施設の耐震化率
スポーツ文化課	6	スポーツ推進計画策定事業	C	スポーツ推進計画の策定
	7	近藤勝也展開催費	A	特別企画展入場者数
発達支援課	8	発達支援教育充実費	C	早期相談・指導施設利用者数
学校給食課	9	給食運営改善事業	D	給食施設・設備更新修繕数
図書館	10	図書館利用促進事業	B	図書館入館者数

事務事業等の自己点検評価票

事業番号：1

担当課所：社会教育課

事務事業名		学校支援地域本部推進事業	
予算額 (千円)	決算額 (千円)	不用額 (千円)	予算区分
3,600	3,183	417	経常・ <u>施策</u> ・公共・単独
事業の概要	<p>地域全体で学校教育を支援するため、学校と地域との連携体制の強化を図り、地域住民が社会教育で学んだ成果を生かす場を提供することにより、地域活動の活性化、地域教育力の向上を目指す。</p>		
事務事業の成果、結果、執行状況、課題等	<p>市内13校区（新居浜、宮西、金子、金栄、浮島、垣生、神郷、多喜浜、泉川、中萩、船木、大生院、角野）において、公民館を拠点に、学校支援地域本部の活動を展開した。地域のボランティアによる校区内の登下校時の見守り活動、通学路・学校施設等の環境整備活動、学校活動の各種支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校支援地域本部：13 ・ボランティア活動参加延べ人数：32,444人 		
自己評価	C	ほぼ目標の活動ができた	
前年度からの改善状況等	<p>平成20～22年度、補助事業として試行し、平成24年度から、補助事業として実施。</p>		
今後の方向性	<p>現状のままこの事業を継続する中で、具体的な地域ぐるみで学校運営を支援する体制を構築していく。</p>		

「学識経験者の意見」及び「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

○学識経験者の意見

- ・地域全体で子どもたちを育てていくという考え方には賛成です。学校はこの範囲まで、地域はここまで、PTAはここまで、と境界線を作っているのは必ず空白の部分ができます。それにより不利益を被るのは他ならぬ子どもたちですから、そうならないように、これからも各団体の垣根を取り払うよう努力し本事業を積極的に推進していただきたいと思えます。また見守り活動はしているものの、本事業に参加していない校区があるようですが、教育委員会から参加を呼びかけてはいかがでしょうか。
- ・地域と学校の連携のもと、地域住民が職業生活や社会教育で学び培ってきた力を、学校の中に生かし支援し豊かな子どもを育てていこうとする事業。本年は更に定着し充実しつつあるのは心強い。中でも泉川校区では学校と地域が一体となつての「小中学校地域連絡会」を月1回定期的に開催し、困り感や希望する支援につき本音で出し合い各世代の方々が住民総参加的に、しかも学校、子どもを支援できることに喜びを持って参加し実践し成果を上げている。子どもを中心に据えた明るい街づくりへと発展させつつあるのは素晴らしい。地域の活性化、地域の教育力向上へと進化させている。全国的にもトップレベルの校区といえよう。13校区の内、数校区は趣旨の不徹底か取組が消極的で登下校の見守り活動に終わっている校区もある。未活発な校区は学校と地域が更に信頼関係を深め地域コーディネーターの力の発揮も得て、支援の拡充進展を図っていただきたい。
- ・地域全体で学校教育を支援するため学校、地域が協力し取り組んでいることは本当にいいことです。朝、校区の生徒の登校時など、また運動会、公民館などで、その様子を見る時、ホッとします。地域住民もボランティアとし、いろいろな場面で社会教育で学んだ成果を生かす場があることも本当にいいことです。これからも続けていただきたいです。

○評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性

今後も、各校区の自主性と計画性に基ついた学校支援地域本部事業の推進に努めてまいります。

なお、本補助事業の採択を受け学校支援地域本部を設置していない校区の活動については、現在の地域活動のうち、本事業と趣旨を同じくする活動の今後の拡充の予定や意向を確認しながら、支援を行い、必要に応じて補助事業への移行を検討してまいります。

事務事業等の自己点検評価票

事業番号：2

担当課所：社会教育課

事務事業名		新しい公民館創造プロジェクト事業	
予算額 (千円)	決算額 (千円)	不用額 (千円)	予算区分
12,740	12,198	542	経常・ <u>施策</u> ・公共・単独
事業の概要	<p>従来の公民館事業は、社会教育関係団体を対象とした学級講座、地域づくりを推進するイベント等を実施していた。地域主導型公民館への移行にあわせ、従来の公民館事業を再検討し、新しいスタイルの公民館事業を創造するとともに、より多くの住民が公民館活動に参加し、住民主体で企画運営できる公民館を目指す。(委託事業)</p>		
事務事業の成果、結果、執行状況、課題等	<p>地域の課題解決につながる新しい事業を開設したり、住民のニーズにあった事業を展開した。学習活動を、地域づくりに活用できるような、新しい組織や体制づくりの推進を図ることができた。</p> <p>・平成24年度延べ参加者数 48,870人</p>		
自己評価	C	ほぼ目標の活動ができた	
前年度からの改善状況等	<p>平成23年度からの新規事業。引き続き、住民主体で企画運営できる公民館を目指すべく、学習活動を地域づくりに活かせるような活動の拡充に努めている。</p>		
今後の方向性	<p>地域主導型公民館の新しいスタイルの事業を創造するとともに、住民参加型の企画運営ができるよう、今後もこの事業を継続する。</p>		

「学識経験者の意見」及び「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

○学識経験者の意見

- ・ 18館全館が地域主導型公民館へと移行して二年目を終えた。従来の公民館事業を真摯に再検討し、地域の特色を再学習し、その中から地域に合った、住民のニーズに合った事業を住民の手で企画、創出し意欲的に展開しているのは高く評価する。
- ・ 地域の歴史、地域の発展に尽くした先人の努力の跡、史跡めぐり、地域の自然環境の特色・・・等素晴らしい事業を推進している。
- ・ 本年度、各公民館が防災、減災学習に積極的に取り組み、昨年より更に地域の地形学習を深めた上で危険場所、災害時の逃げる場所、逃げ方、瞬時の対応等ワークショップの中で活動しているのは地域密着的になっていった成果といえよう。
- ・ 住民にも子どもたちにも自分たちの地域、郷土への愛着感がしだいに醸成されつつあるのも素晴らしい。すべての事業が子どもを中心にして企画運営される方向に進んでいるのは未来が感じられ心強い。ただ、数館移行以前の従来型の活動に止まっている様に見受けられるのは残念である。意欲的に取り組み、成果を上げている館に学び競い合い刺激し合いながら、切磋琢磨していく気風が生まれればと願います。
18館全館が生き生きとした地域主導型公民館になっていくことを期待します。
- ・ 公民館での取り組みをよく目にしたり聞いたりしますが、えひめ地域政策研究センター発行の舞たうん No.118に泉川公民館今西光昭館長の「自分達のまちは、自分達の力で！」という記事を読ませていただきました。新しい公民館創造プロジェクト事業の成果そのものが掲載されていました。新居浜市では、それぞれ、ますます新しいスタイルの公民館事業を創り上げ元気なステキな町になることと思います。皆の協力で、その町、その町の課題も乗り越え若い人が1人でも多く参加し若々しい公民館になることを願います。
- ・ 事業概要に「新しいスタイルの公民館事業を創造する」とありますが、これまでの地域の慣例に従ってはいつまで経っても新しい公民館にはならないと思います。本気で新しい公民館にするのであれば地域住民にそのことを周知するとともに、主事、主事補はリーダーシップをもっと発揮し変革すべきだと思います。

○評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性

各種学習活動と学習の成果を、将来の地域づくりに役立てることができるような学習とまちづくりの視点に立った様々な活動が、地域の実情に応じて行えるように、企画・計画の段階から住民参加型の運営ができるように、今後も本事業を継続します。また、各校区の取組み方や公民館職員の情報交換等への支援など、日常業務の中で今後も地域主導型公民館の積極的な活動手法の研鑽に努めてまいります。

事務事業等の自己点検評価票

事業番号：3

担当課所：学校教育課

事務事業名		社会科副読本発行費	
予算額 (千円)	決算額 (千円)	不用額 (千円)	予算区分
3,654	2,615	1,039	経常・ <u>施策</u> ・公共・単独
事業の概要	<p>小学3・4年生用社会科副読本「わたしたちの新居浜市」は、新居浜市を中心として、地域にみられる自然と人々の生活や活動の様子をできるだけ具体的に取り上げ編集されており、社会科の教科書では学習できない「郷土に関する学習」に役立てることができる。</p> <p>学習指導要領の改訂に合わせ全面改訂を、4年ごとの教科書の採択に合わせ部分改訂を行う。</p>		
事務事業の成果、結果、執行状況、課題等	<p>平成23年度から小学校の新学習指導要領が完全実施されたことに伴い、今回、「わたしたちの新居浜市」を全面改訂した。</p> <p>郷土に関する学習教材として活用することによって、子どもたちに、郷土への関心を深め、郷土を愛する心を育成することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発行部数 6,000部 <li style="padding-left: 20px;">(平成25年度から平成28年度までの小学3・4年生全員に配布する。) ・印刷費 2,614,500円 (単価：435.75円) 		
自己評価	B	目標を上回る成果が上がった	
前年度からの改善状況等	<p>社会科副読本編集委員会（編集委員25名）を年間9回開催し、掲載内容を十分に吟味するとともに、統計資料や写真等もできかぎり新しいものや現状に適するものとした。</p>		
今後の方向性	<p>平成27年度に新しい教科書が採択されることに伴い、平成28年度に部分改訂を行い、平成29年度から平成32年度までの小学3・4年生全員に配布する。</p>		

「学識経験者の意見」及び「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

○学識経験者の意見

- ・「わたしたちの新居浜市」立派な副読本を見せていただき、この本を手にし自分自身が、もう一度新居浜市について学びたいと思いました。素晴らしい副読本です。3年生、4年生はもちろん兄弟や親も、目にすると思うので大きな効果があることでしょう。社会科の教科書では、できない郷土に関する学習を深くすすめ、自分の住む町を大好きになり「ふるさとを愛し、未来をきづく子ども」が育っていくことでしょう。
- ・大変よくできた副読本になっていると思います。本市の産業発展に寄与した偉人を取り上げているところは特に評価できると思います。
- ・昭和45年に創刊された「工業のさかんな新居浜市」から、昭和56年「わたしたちの新居浜市」へと改名され、その間、幾度もの改訂を重ねての今回の全面改訂。関わった教育委員会の方々、編集に携わった先生方皆さんの真摯な作業と熱い思いが、結晶して最高の価値ある副読本となりました。心からの賞賛と感謝をおくります。
- ・阿部教育長の序文、心打たれました。先人の努力で今の新居浜市がある。更に皆さん一人一人が、がんばって未来を拓いてくださいという熱いメッセージ。その思いは子どもたちにも十分に伝わり、今から自分たちの街をしっかりと学んでいこうと意欲を持って学習に入ってくれるにちがいありません。本市へのきりこみ方、構成が良い、文章の一つ一つに推敲が重ねられている、写真がいい、資料が的確である・・・全編に創意工夫が図られている。
- ・郷土を知り関心を深めて成長していく中で、郷土への愛着、誇りを育ててくれることでしょう。そして、望ましい市民となり、自分に何ができるか考えられる人になってくれると期待できます。学校教育課の“めざす子ども像”が「ふるさとを愛し未来を拓く子」となっていますが、具現化に向けての最高の副読本となっています。全国どこへ出しても自信の持てるものとなっています。ご苦労様でした！！

○評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性

平成23年度からの小学校の新学習指導要領の完全実施に伴い、小学3・4年生用社会科副読本「わたしたちの新居浜市」を全面改訂いたしました。

「わたしたちの新居浜市」は、新居浜市を中心として、地域にみられる自然と人々の生活や活動の様子をできるだけ具体的に取り上げて編集されており、郷土に関する学習教材として活用することによって、子どもたちの郷土への関心を深め、郷土を愛する心を育成することができるものと考えております。

この副読本で学ぶことにより、教育委員会が「めざす子ども像」として掲げている「故郷を愛し 未来を拓く子」を育てていくことを目指してまいります。

事務事業等の自己点検評価票

事業番号： 4

担当課所：学校教育課

事務事業名		小学校耐震補強対策事業	
予算額 (千円)	決算額 (千円)	不用額 (千円)	予算区分
524,810	517,278	7,532	経常・施策 <u>公共</u> 単独
事業の概要		耐震補強の必要な市内小学校17校の校舎・体育館55棟について、平成18年度から平成24年度までの7か年計画で耐震補強工事を実施し、安心・安全な施設とする。	
事務事業の成果、結果、執行状況、課題等		平成24年度は、校舎8棟（3校）の耐震補強工事を実施した。 ・宮西小学校（2棟）・浮島小学校（3棟）・角野小学校（3棟）	
自己評価		C	目標どおりの成果が上がった
前年度からの改善状況等		従来から教育環境に配慮した施工に努めている。	
今後の方向性		平成24年度で耐震補強工事を計画どおり全て完了したことから、事業を廃止する。	

事業番号： 5

担当課所：学校教育課

事務事業名		中学校耐震補強対策事業	
予算額 (千円)	決算額 (千円)	不用額 (千円)	予算区分
70,897	66,188	4,709	経常・施策 <u>公共</u> 単独
事業の概要		耐震補強の必要な市内中学校11校の校舎・体育館20棟について、平成18年度から平成24年度までの7か年計画で耐震補強工事を実施し、安心・安全な施設とする。	
事務事業の成果、結果、執行状況、課題等		平成24年度は、校舎1棟（1校）の耐震補強工事を実施した。 ・南中学校（1棟）	
自己評価		C	目標どおりの成果が上がった
前年度からの改善状況等		従来から教育環境に配慮した施工に努めている。	
今後の方向性		平成24年度で耐震補強工事を計画どおり全て完了したことから、事業を廃止する。	

「学識経験者の意見」及び「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

○学識経験者の意見

- ・本市は全国的にも他市町村に先駆けて鋭意、英断して積極的に推進し、県内では耐震化率低い所も多々ある中、早々と100%達成工事完了し一位となりました。安心安全な学校となりました。その間、東日本大震災があり、続いて南海トラフ巨大地震被害予測が出たりと不安もありましたが、着々と無事に執行できたことは貴重な施策でした。学校も地域も安心できました。この上なく評価します。
- ・付帯工事の外装ですが、近年、全国的にスクールカラーの研究が進み、今までの一般的な白い色から学校環境色として明るい色、温かい色、心の状態に適応する優しい色、加えて地域の防災拠点、避難所としての目立って分かりやすい色等と検討がなされています。本市の小中学校数校でもスクールカラーの研究の上にとって適切なカラーが選ばれ、学校が一変、明るく楽しく生まれ変わり、子どもたちも自分たちの学校という意識が深まる一助になったと思います。その努力に敬意を表します。
- ・平成24年度100%整備とのこと、ご苦労様でした。子どもたちの安全のためのお仕事、ありがとうございます。
- ・非常に大きな費用がかかっていることに驚きました。これだけの費用をかけるのであれば建て替えを検討してはどうかと思うのは一般市民の気持ちではないでしょうか。資金や法的な規制があつて簡単なことではないのは説明を受けて理解できましたが。しかし、近いうちに起こると言われている大地震に対して、子どもたちの生命を守り、地域住民の避難場所としての役割を果たせますので高く評価できると思います。
- ・計画どおり平成24年度100%達成。無事完了し安心安全な学校となりました。他市町村に比べ本事業を優先的に取り組み推進してきたこと高く評価します。
- ・付帯工事のスクールカラー塗装ですが、北中学校と宮西小学校隣接する中、それぞれにツートンカラーで心落ち着く温かさのある色が選定され二校がぴったりと調和のとれた風景、スクールゾーンを作りあげています。市民の心も豊かにしてくれます。二校の連携に拍手です。

○評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性

平成18年度から全ての小中学校の教育施設の耐震補強に取り組んでまいりました。学校施設は、児童生徒が一日の大半を過ごす場であると同時に、災害時には地域住民の避難所としての役割を果たすところがございますことから、安全性の確保が急務という考え方で事業推進を図ってまいりました。工事期間中は、騒音や、暑さなどで御迷惑をおかけしましたが、関係各位の御理解と御協力により、県内でも早期の完了となりました。

平成24年度で耐震補強工事は完了いたしました。築後35年以上経過した施設が大半でありますことから、今後は、施設の老朽化対策が、緊急の課題となっております。施設の長寿命化改修及び改築を実施し、安全・安心で快適な教育施設環境の整備に努めていきたいと考えております。

事務事業等の自己点検評価票

事業番号：6

担当課所：スポーツ文化課

事務事業名		スポーツ推進計画策定事業	
予算額(千円)	決算額(千円)	不用額(千円)	予算区分
2,000	1,670	330	経常・ 施策 ・公共・単独
事業の概要	<p>平成23年8月にスポーツ基本法が50年ぶりに全部改正され、また、平成29年に愛媛県で国民体育大会が63年ぶりに単独開催される。こうした中、新居浜市においても平成23年を初年度とする第五次長期総合計画におけるスポーツの推進を図るため新居浜市スポーツ推進計画を策定する。平成24年度は計画策定のための市民意識調査を実施した。</p>		
事務事業の成果、結果、執行状況、課題等	<p>無作為抽出した2,000人を対象にアンケート調査を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート回収数 747部 (回収率37.4%) ・有効回答数 744部 (回収率37.2%) 		
自己評価	C	目標どおりの成果が上がった	
前年度からの改善状況等			
今後の方向性	<p>今年度の意識調査の結果をもとに、平成25年度に推進計画を策定する。</p>		

「学識経験者の意見」及び「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

○学識経験者の意見

- ・新居浜市スポーツ推進計画を策定するための市民のスポーツに対する意識調査実施。無作為抽出2,000人対象にアンケート調査。回収数747部、回収率37.4%。統計学的には大丈夫な数値とのことですが、この回収率から市民のスポーツへの関心度は低いと受けとめられる。
- ・今後このアンケート分析をもとに小学校、中学校、高校、企業等からヒアリングしたものを基本に「スポーツ推進審議会」で審議をし、推進計画を策定していくとのことであるが、それぞれの場で積極的活発に討議し、市民のスポーツへの関心度、参加度を高めスポーツ振興の拡充が図れる様なスポーツ推進計画を策定して欲しい。そして平成29年度国体を市民全体で支え、成功させていける様、強力に推進して欲しい。
- ・愛媛県での国体開催、またオリンピックの開催が決定しスポーツへの取り組みも熱が入ると思います。平成24年度計画策定のための意識調査の結果を生かし平成25年度にすすみ、推進計画などの実のあるものになるよう希望します。

○評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性

平成25年度に、アンケート調査の結果及びヒアリングした内容をもとにスポーツ推進計画を策定いたします。なお、平成29年に開催される「えひめ国体」において、多くの市民がサポートしていただけるとともに、多くの選手が県代表としてプレーできるような環境整備が推進できるよう「スポーツ推進審議会」で協議してまいります。

事務事業等の自己点検評価票

事業番号：7

担当課所：郷土美術館

事務事業名		近藤勝也展開催費	
予算額 (千円)	決算額 (千円)	不用額 (千円)	予 算 区 分
9, 196	9, 078	118	経常・ 施策 ・公共・単独
事業の概要	<p>市制75周年記念事業として、地域の優れた文化・芸術、さらにはよりハイレベルな作品の紹介を計画。本市出身で、新居浜ふるさと観光大使でもあり、スタジオジブリにおいて中心的な役割を務め活躍しているアニメーター・近藤勝也氏のこれまでの歩みを紹介する展覧会を開催。</p>		
事務事業の成果、結果、執行状況、課題等	<p>アニメーションという初ジャンルの展覧会に取り組むことで、普段美術館へ足を運ぶことの少ない若年層へのアプローチを中心とした広報・関連イベント等を展開した。その結果、大人から子どもまで幅広い世代の方が来館し、開館以来最高となる13,717人の来館者数となった。ワークショップでは小学生から高校生までが参加し、作家の指導のもとでアニメーションの面白さを肌で感じる貴重な体験となった。新居浜市の文化活動（美術館活動）だけでなく、これまであまり触れ合う機会が少なかった作家と交流を図ることで、郷土文化に対する関心を高めることができた。</p>		
自己評価	A	目標を大きく上回る成果が上がった	
前年度からの改善状況等			
今後の方向性	市制75周年記念事業としての単年度実施のため、廃止		

「学識経験者の意見」及び「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

○学識経験者の意見

- ・「目標を大きく上回る成果が上がった」とされる自己評価のとおり素晴らしい企画だと思います。入場者数がそれを証明しています。本市出身である近藤氏の仕事に触れ、子どもたちのみならず大人も大いに刺激を受けることができたものだと思います。単年度実施ではなく数年後にも開催していただきたいと思います。
- ・市政75周年記念事業として本市出身新居浜ふるさと観光大使のジブリのアニメーター“近藤勝也展”開催。大人から子どもまで幅広く、そして市内外は勿論インターネットで知ってと関東、関西方面からも訪れ多くの人々が熱心に鑑賞された。開館以来最高の13,717人の来館者数。まさに大成功の画期的事業と評価します。数字上だけでなく開催に向け、さまざまな困難も克服しながら真摯に推進していった過程の努力も高く評価したい。
- ・行政主催のジブリ展がスタジオジブリ、三鷹の森ジブリ美術館と直接契約し全面的な企画、協力をいただき作品搬入の便宜、展示法の関わり、さまざまなご指導をいただいたのは全国で初めてである。予算もジブリとの契約としては破格で献身的支援をいただいたとのこと。近藤勝也氏の出身地ということとスタッフの努力の賜物であろう。
- ・郷土作家に光を当て、その素晴らしさを多くの人々にという熱い思いで郷土美術館スタッフは、あらゆる広報媒体を駆使してPRしていった努力も賞賛に値する。
- ・小学校から高校生までの作家指導によるワークショップ開催。子どもたちは目を輝かせ心弾ませて感動体験。また幼年、少年時代からの作品も展示され親近感が持てた等、この上ない企画であった。本館の職員が、スタジオジブリのスタッフと共に準備する中で、レベルの高いプロのノウハウに接し、ご指導いただいたのも職員のレベルアップにつながり、貴重な研修にもなったと思う。
- ・本市に生まれ育った絵を描くことの大好きだった少年が宮崎駿に憧れて上京。今では宮崎監督のすぐ横でジブリ作品の作画監督、キャラクターデザインという重要な役割を担うまでになった。その軌跡は子どもたちに、市民に夢ある、あたたかい感動として深く残った。真夏の良きプレゼントとなった。市政75周年記念事業、平成24年度特別企画展として最高の歴史に残る事業だったと評価します。
- ・7月のある日、新居浜市立郷土美術館入口のところから長い列が出来ていてびっくりしました。近藤さんの展覧会に集まった人に聞いてみてよかったですと思いました。市政75周年記念事業として開催し13,717人の来館者数となったとのことですが、市民にとっても行政にとっても美術館にとっても、本当にいい勉強になったことと思う。ワークショップの開催もあり、参加出来た小～高校生までの子どもにとっても文化、芸術にふれるいい機会になった。また、実物の近藤さんに会うことが出来たことはとても幸せだったと思う。

○評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性

今後とも、市民の芸術文化の向上を図るため、優れた美術作品や芸術作家を紹介する魅力的な企画展を計画してまいります。特に、今回の成果については、新設される総合文化施設の推進計画に反映できるよう取り組んでまいります。

事務事業等の自己点検評価票

事業番号： 8

担当課所： 発達支援課

事務事業名		発達支援教育充実費	
予算額 (千円)	決算額 (千円)	不用額 (千円)	予算区分
19,633	17,783	1,850	経常・ 施策 ・公共・単独
事業の概要	<p>障がいや発達課題のある子どもが地域で自立した生活ができるように、各幼稚園、保育所、小・中学校、療育機関等と連携を強化しながら就学前、学齢期における早期発見、継続支援、地域における早期療育体制の整備充実を図る。</p>		
事務事業の成果、結果、執行状況、課題等	<p>こども発達支援センターを中心に関係機関との連携のもと、早期からの発達支援の諸事業の展開が図られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談（対象388件）、総合相談（延べ1,446件）、就学相談（対象210件）、講演会（年2回）、スキルアップ連続講座（年2回）。 <p>日常生活における集団生活への適応訓練等の指導及び療育を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ことばの教室（登録107人、延べ通園1,070人）、育ちの教室（登録51人、延べ通園855人）、ソーシャルスキル支援事業（延べ参加者98人）、聴覚障がい児相談事業（延べ参加者19人） 		
自己評価	C	目標どおりの成果が上がった	
前年度からの改善状況等	<p>早期療育通園事業の利用児の増加に対応するため、療育時間割の見直し等早期療育体制の充実強化に取り組んだ。通常学級における発達障がい等の児童生徒に対する支援技術の現場力を高めるために心理アセスメント教室を開始した。</p>		
今後の方向性	<p>早期からの療育ニーズの多様化、高度化に対応するために、臨床心理士等の確保、地域における人材育成を図る必要がある。</p>		

「学識経験者の意見」及び「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

○学識経験者の意見

- ・こども発達支援センターを中心に関係機関との連携のもと諸事業に取り組まれています。一人一人にあわせ進める事は大変だと思いますが、よろしくお願ひします。一人一人の子どもはもちろん、その子を取り巻く親も地域の者も少しでも成長することを願っています。障害や発達におくれがあることがわかると落ち込むと思ひます。でも、やがて元気を出し前に向かってすすみはじめます。その時、まわりからの具体的な支援の体制が整っていれば効果も倍にも3倍にもなり、希望をもち人生をあきらめることなく新居浜市の市民の一人として堂々と生きていくことが出来ることでしょう。平成27年4月開校予定の肢体不自由児支援学校としてもキタイしています。
- ・開所3年目を迎え益々充実してきた「こども発達支援センター」を中核にして関係機関との連携強化を図りながら、着実に事業が展開され成果を上げていました。早期発見のための相談事業、年々研修を深めきめ細かで専門的な対応の充実が図られていました。早期療育通園事業も一人一人への療育の質を高めながら積極的に推進し登録者数、参加数も増加しています。
- ・新規事業として発達検査希望者が増える中、事例検査を読み取り的確な支援をしていくための「心理アセスメント教室」が開始され、スキルアップに努めていました。全てにパイオニア的に取り組んでいる本市ならではの進展です。継続支援の充実も一層に図られていました。臨床心理士の十分な確保は難しいでしょうが、今後は療育ニーズの多様化、高度化の対応と共に支援に携わる職員、スタッフの心のケア等でも更に必要となってくるでしょう。益々人材育成と確保へのご努力もいただきたい。
- ・本市の発達支援教育の取り組みに対し県内外、関東、関西、九州地方からも多くの研修見学があるとのことですが、先駆的で真摯な事業推進が高く評価され注目されると推測します。どうか自信と誇りを持って益々進展拡充させて下さい。障がいや発達課題等のある子ども一人一人が持っている力を最大に伸ばさせながら将来生き生きと社会の中で自立していけるよう就労できていける様心から願っています。
- ・福祉から教育につながる本事業は大変有意義なものであると思ひます。発達支援課は充分リーダーシップをとって当該の子どもたちの支援だけでなく、教員の相談や研修にと力をつくされていることがよくわかりました。ただ、一言で発達障がいと言っても最近の種類が多くわかりにくくなっていますので、一般市民にも周知理解を深めさせることも必要だと思ひます。また、説明資料にある「ソーシャルスキル」「アセスメント」の意味が一般市民には理解できないと思ひます。その意味を表す適切な日本語はないものでしょうか。

○評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性

子どもや家族が抱える悩みや困難を支援する地域療育事業の充実強化は、喫緊の課題であると認識しており、今後も療育や心理判定等の専門技術職員や通園事業の職員の人材育成確保と支援システムの整備充実に取り組んでまいります。特に、職員のメンタルケアの対応も含め、発達検査を求める保護者の増加に対応するため、心理職である臨床心理士等の正規職員での対応等、更なる充実を図ってまいります。

また、今後、障がいの有無に関わらず共に学んでいく（インクルーシブ）教育の推進が重要であり、教育現場において、特別な教育的ニーズを必要としている子どもたちと共に学ぶことが、人格形成や学習促進に非常に有効であることを保護者や地域社会に対し、理解促進を図る取組も推進してまいります。

ご意見の中にもありましたように、専門的な表現が多くなってきていると思ひますが、「ソーシャルスキル支援事業」及び「心理アセスメント事業」のカタカナの表記については、受講者が専門的な立場である支援者であることから、連続的な一連の単語として取り扱っております。なお、ソーシャルスキルは、研究者や研究内容・目的によって「社会の中で自立し主体的であるとともに、他の人との協調を保って生きるために必要とされる生活上の能力」や「認知的能力」等さまざま定義がございます。また、アセスメントも「個人の状態を理解し、必要な支援を考えたり、将来の行動を予測したり、支援の成果を調べること」や「評価」、「情報収集」等と目的によって意味が変化することから、今後検討してまいります。

また、長年の要望でもありました東予地域での肢体不自由対象の特別支援学校が、新居浜西高校敷地内に設置されることで、地域の小・中学校・高校の児童生徒の交流促進による、思いやりや協調性のある豊かな人間性や社会性の育成、共生意識の向上などインクルーシブ教育の推進が益々期待されます。これからも新居浜で生まれた全ての子どもが、新居浜で育ち、学び、暮らしていけることのできる仕組みづくりを推進してまいります。

事務事業等の自己点検評価票

事業番号：9

担当課所：学校給食課

事務事業名		給食運営改善事業									
予算額 (千円)	決算額 (千円)	不用額 (千円)	予算区分								
18,810	16,325	2,485	経常・施策・公共・ 単独								
事業の概要	<p>本市では、児童及び生徒の心身の健全な発達に資することを目的に、昭和23年から学校給食を実施しているが、厨房施設・設備等の老朽化が進んでいる。このため安全でおいしい給食を提供するために、施設・設備等の適正な維持管理・更新及び改善が必要である。</p>										
事務事業の成果、結果、執行状況、課題等	<p>市内18学校給食調理場（対象児童・生徒数、約10,500人）の厨房関係施設・設備及び食器等の修繕及び更新を行った。主要設備等については、年次別に計画を立て実施している。しかし、各調理場からの更新・修繕の要望等の件数が多いため、すべての要望に対応しきれていないのが現状である。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">消耗品費</td> <td style="text-align: right;">2,630,181円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">施設修繕料</td> <td style="text-align: right;">914,445円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">器具修繕料</td> <td style="text-align: right;">2,956,694円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">備品購入費</td> <td style="text-align: right;">9,822,792円</td> </tr> </table>			消耗品費	2,630,181円	施設修繕料	914,445円	器具修繕料	2,956,694円	備品購入費	9,822,792円
消耗品費	2,630,181円										
施設修繕料	914,445円										
器具修繕料	2,956,694円										
備品購入費	9,822,792円										
自己評価	D	目標を下回る成果にとどまった									
前年度からの改善状況等	<p>主な備品の購入状況</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">若宮小（牛乳用冷蔵庫）</td> <td style="text-align: right;">551,250円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">神郷小（球根皮剥機）</td> <td style="text-align: right;">510,300円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">高津小（冷蔵庫）</td> <td style="text-align: right;">638,400円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">角野小（冷凍冷蔵庫）</td> <td style="text-align: right;">726,600円</td> </tr> </table>			若宮小（牛乳用冷蔵庫）	551,250円	神郷小（球根皮剥機）	510,300円	高津小（冷蔵庫）	638,400円	角野小（冷凍冷蔵庫）	726,600円
若宮小（牛乳用冷蔵庫）	551,250円										
神郷小（球根皮剥機）	510,300円										
高津小（冷蔵庫）	638,400円										
角野小（冷凍冷蔵庫）	726,600円										
今後の方向性	<p>安全・安心な学校給食の提供を行うためには、適正な維持管理や施設・設備の更新等が必要不可欠なものであり、今後においても継続して維持管理等を行う。</p>										

「学識経験者の意見」及び「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

○学識経験者の意見

- ・D評価の理由は予算が足りず実行できないことが多かったためと聞きました。給食は子どもたちがただ単に空腹を満たすだけのものではないことは言うまでもありません。食育という言葉が示すように給食の間も重要な教育の一部です。その目的を果たすためにも施設や備品、器具の更新ができるだけの予算をつけるべきだと思います。
- ・学校給食検討委員会において平成30年度から調理場の統合、改築の予定であると聞きましたが、そういった長期の構想はもちろん大切なことですが、目先の問題が後回しにならないようにお願いします。
- ・昭和23年から実施の市内学校給食調理場の厨房施設・設備等の修繕、更新の要望件数は年々増え対応しきれず対応率は70%。本事業の評価は低くならざるを得ません。しかし厳しく困難な状況の中、現場の方々日々細心の注意をはらいながら安心安全でおいしい給食提供に努力されていること、高く評価します。
- ・今後に向け自校方式か、センター方式かにつき本年は「学校給食施設準備委員会」の中で研究され、平成25年度には「学校給食検討委員会」を立ち上げ審議されていくということです。平成13年に開所した学校給食センターでは初年度は給食選択率54.1%。しかし、安心安全でおいしい給食提供により生徒、保護者に信頼され支持されて年々上昇し平成24年には91.8%にまで達しています。この状況から鑑みてセンター統合化への推進を是としていいのではと考えます。
- ・子どもたちの健康のため、安心安全な給食をよろしくお願いします。

○評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性

安全・安心な学校給食の提供を行うためには、適正な維持管理や施設・設備の更新等が必要不可欠なものでありますが、現在の調理場の恒久的な老朽化が進み、安全設備の機器更新と緊急を要する器具修繕を優先して事業を行っております。今後においては、維持管理の予算要求はもちろんのこと、限られた予算のなかで、安全性を高めながら充実した給食の提供が実施できるよう、管理運営面では計画的な事業執行を行ってまいります。

また、現在の衛生管理基準に対応するドライシステム調理場に改築するため、「学校給食検討委員会」において、今後における学校給食の運営方針についても検討を行ってまいります。

事務事業等の自己点検評価票

事業番号：10

担当課所：図書館

事務事業名		図書館利用促進事業	
予算額 (千円)	決算額 (千円)	不用額 (千円)	予算区分
22,696	22,606	90	経常・ <u>施策</u> ・公共・単独
事業の概要		<p>地域の情報拠点・学習支援施設として、市民の自主的、自発的な学習活動を支援するため、資料の収集、迅速かつ新鮮な情報の提供及び継続的な資料の保存さらに学習機会の提供に努める。</p>	
事務事業の成果、結果、執行状況、課題等		<p>図書館資料の計画的な購入及び廃棄により蔵書の新陳代謝を進め、市民が必要とする資料や情報を提供し定期的に行事や講座を開催した。さらに雑誌スポンサー制度（スポンサー雑誌15誌）を導入したことで、新たな財源を確保し、図書資料の充実につながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規購入冊数等 (図書) 10,937冊、(AV資料) 280点、(雑誌) 161冊、(新聞) 9紙 ・定例お話会及び各種行事等の実施 子ども探検隊&銅アートに親子で挑戦(親子13組)、子ども一日図書館員(子ども35人、大人9人)、夏の夜のちょっと怖いお話会(子ども95人、大人143人)、別子銅山に関する本の解説講座 年間7回(総参加者374人)、図書館まつり：ブックリサイクル(約630人) ・図書館見学ツアー(13人)・銅アートづくり(18人)、本とあそぼう全国訪問おはなし隊(子ども56人、大人40人) 	
自己評価		B	目標を上回る成果が上がった
前年度からの改善状況等		<p>新たに雑誌スポンサー制度を導入し、事業者の宣伝効果と図書資料の確保という地域企業との協働による図書館サービスを取り入れ、地域活性化を推進した。また、学習意欲の高い年齢層に向けての講座を充実させ生涯学習の場として提供することができた。</p>	
今後の方向性		<p>市民ニーズをふまえた資料・情報提供を充実させ、様々な媒体を通じて図書館サービスのPRを充実強化する。さらに地域課題解決の役割を担えるよう地域企業や団体との連携強化を図る。</p>	

「学識経験者の意見」及び「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

○学識経験者の意見

- ・説明を聞いて、非常に能動的に活動している図書館であると感じました。雑誌スポンサー制度はスポンサー企業、図書館、市民の三方良しの制度で、素晴らしいアイデアだと思います。また、ブックスタート事業で0歳児の図書カードを同時に作るという発想は素晴らしいと思いました。
- ・「新刊書は注文し図書館に並ぶまで時間がかかると思いますが早く並べて下さい」と数名の人が話していました。お伝えします。
- ・事前の説明の時、今年も布の絵本を購入予定で注文しているとのこと、うれしく思いました。どんな本が完成し届くのかたのしみです。
- ・雑誌スポンサー制度の導入など新しい取組はすばらしいです。
- ・学校図書支援員さんが要望どおり配置され、本が子どもにより近くなり本が大好きな子どもが育って、人生も豊かなものになり、より社会へとつながっていくことと信じてます。ますますいい図書館になりますようにお仕事続けてください。
- ・常に改革改善を重ね前進する図書館ですが、本年も新事業として「雑誌スポンサー制度」導入に挑戦し見事成功していました。10事業者による15誌の新たな提供。子ども、主婦向け等の好感度高い雑誌が選定され、歓迎され愛読されています。この導入により新たな財源の確保と共にスポンサーが読者へ自企業の商品の案内やサービスの宣伝の機会を提供できることとなり、図書館と地域企業の協働事業として双方の利点が図れた事業となったと考えます。チャレンジする図書館に拍手です。
- ・“別子銅山に関する本の解説講座”では昨年より更に開催回数を増やし参加者も大きく伸び、学習を深めた市職員が講師となる講座も入ったりと学習意欲の高い年齢層に十分に満足してもらえる様な講座に充実発展させていました。幼い時期から本に親しむ機会の提供では創意工夫されたさまざまな楽しい企画が実施され親子で図書館への誘いかけに成功していました。
- ・多目的ホールも数年前に比べれば瞠目に値するほどの積極的有効活用がなされ研修会、講習会の最適なフロアに成長しています。
- ・昨年、職員の接遇につき提案いたしました真摯に受け止めていただき、講師を招いての研修会等を実施、学習して館全体が明るく優しく丁寧な対応が徹底されるようになり、微笑みあふれる館に変貌していました。ご努力に敬服です。
- ・全ての事業が活性化され益々地域の情報拠点、学習支援施設として市民に愛され、信頼され役立つ図書館に進展しています。高く評価します。全国トップレベルの図書館といっても過言ではないでしょう。

○評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性

市民への新鮮な資料・情報提供に迅速、丁寧に対応し、関係機関と連携しながら積極的に事業を推進してまいります。今後も職員の創意工夫により、魅力あるイベントや講座の実施に努めます。

また、学校図書館の一層の充実を目指し、成果を検証しながら支援をしてまいります。

○総評

- ・学校図書館支援推進事業について、学校図書館の機能アップのため、学校図書館支援員の派遣をスタートして5年、着々と成果を上げ各校より常にひっぱりだこの状態。図書館整備は、ほとんどの学校で教職員の協力を得て実施され、魅力ある図書館、居心地の良い図書館へと変わり、昼休み利用者も5倍、6倍に増え本に親しむ子どもの育みに大きく寄与している。上級生が下級生への読み聞かせ活動もできるようになったり、不登校生緩和の一助になったりと成果は多岐にわたっている。
- ・中でも下調べ学習支援は想定以上で子どもたちの意欲を大きく引き出している。一例として多喜浜小学校では支援員と地域の歴史として“塩田学習”を進める中、塩への愛着と誇りを学び、寄贈で校内に設置されているミニ塩田“ソルティ多喜浜”の手作り塩を活用してソルティちゃん（クッキーとラスク）のプロデュースに挑戦。子ども、支援員、教職員、地域の人が一つになり、地元の菓子会社の協力を得て、商品化に成功。今でも店頭で好評の中販売されている。続いて子どもたちはキャンディ、ソルティサイダー、天日塩等も創り出していった。この上ない感動と達成感を味わった。文部科学省から高く評価され「特色ある読書推進活動校」として文部科学大臣表彰を受けた。また、多喜浜校区も「地域による学校支援活動」（地域と共に塩田文化を繋ぐ活動）で文部科学大臣表彰と学校、地域のダブル受賞となった。支援員の真摯な活動の賜物と言えよう。子どもたちの心に益々郷土への愛着と誇りが育めたと思う。本市にとってもこの上ない荣誉となった。また、“ソルティ多喜浜”寄贈の原動力となった新居浜中央ライオンズクラブ35周年の式典に県内外から来市した250名のライオンズ会員にソルティちゃん等5点をワンセットにして記念品として使用された。本市の子どもたちの学習の発展が広くPRされ感動を呼び賞賛された。地域貢献も担えたと思う。
- ・支援員は絶えず真摯な研修、学習を重ね、いつも笑顔で学校との信頼関係の中で子どもたち先生たちと限られた人数、限られた時間の中で支えています。今では学校からだけでなく保護者からも是非私たちの学校へと熱い要請があると聞きます。教育委員会も予算上は年次的に増員計画を立てているのでしょうが極力早期に全小学校に一人ずつの配置が達成されますように切望します。
- ・新居浜市教育委員会は、どの事業にも先見性とチャレンジ精神で果敢に取り組み、きめ細やかな改革改善を試みつつ新規事業も創出し目標達成に向け、積極的に推進し成果を上げています。高く評価します。
- ・地域主導型公民館の移行により、地域住民が自分たちの地域を見直し、その中から特色ある事業を企画し、未来を切り拓いていく子どもたちを中心に据えて各世代で力を出し合って活動していこうとする気風が温かく醸成されつつあり、地域の教育力の向上が実感できます。期待したいと思います。
- ・社会科副読本の全面改訂は子どもたちが郷土を学び、郷土を愛する貴重な手立てとなってくれるでしょう。
- ・市民一人一人を大切にする教育行政が推進され進展しつづることが実感できました。今後も益々市民に信頼され支持される施策の推進を望みます。
- ・予算について。事業は市の一般財源だけでなく、国を始めいろいろな所からの助成や補助で成り立っていること

は説明を受けて理解しましたが、もう少しまとめて資金を使えるのでしたらもっと効率的な事業運営ができるのではないかと考えます。もったいないと感じました。(例) いじめに関係する事業は7事業あります。それぞれの事業の趣旨は理解しますが、こうして少しずつ予算や労力を分散させていては解決できる問題も機会を逸することになるかもしれません。

- これも例ですが・・・不登校生徒の人数は少しずつ減少しているそうですが、事業計画を立てる時に「不登校生徒の数を減らす」と考えるか「不登校生徒をゼロにする」と考えるのかでは計画の立て方や事業の進め方、資金の使い方が違ってきます。「減らす」目標で不登校生徒が一人減れば自己評価はC、「ゼロにする」目標で十人減った場合はEになるのでしょうか、そのどちらが実際に成果が上がっているのかは、誰にでもわかります。対象者のことを一番に考えた事業計画をお願いします。
- 教育懇談会について。何度も参加しましたが、毎年変化がないように感じました。この事業を否定するものではありませんが、どんなに良い事業でも何年も繰り返していれば人は飽きてしまいます。世の中は常に変化しますので、毎年行われる教育懇談会も時代に合わせたものにするべきだと思います。
- 教育は将来の日本(新居浜市)への先行投資だと思います。費用対効果や効率、また評価だけで事業の良し悪しを判断できるものではないと思います。現在実施されている事業はきっと将来花を咲かせると信じています。子どもから大人までその世代に応じた事業を生涯に亘って続けてほしいと思います。
- いろんな取組ありがとうございます。よく取り組んでいると思います。これからもよろしくお願いします。私は2つのことをこの意見書に書きます。

• その1

発達支援課はもちろんあらゆる場面で、具体的なことが起こると思いますが、とても良かったと思っています。それは新しい学校が出来ることです。平成26年建設、平成27年4月開校ということで、新居浜西高等学校に肢体不自由児支援学校が出来ると聞いています。現在、遠く松山市や重信まで通学している人、また、市内の学校に通っている人など、いろいろなことが起こり対処していかなくてはならないと思いますが、生まれたまちで教育を受けることが出来ること、親にとっても子どもにとってもありがたいことです。おじいちゃん、おばあちゃん、そして近所の人にとってもうれしいことです。県立学校といっても連絡を取りながら進めていただきたいです。よろしくお願いします。

• その2

その1にも関連しますが、ニュースで鳥取県で日本で初めての「手話言語条例」が決定され「手話を言語とする人のための条例を実のあるものに」という内容でした。時代は確実に進んでいます。誰もが住みやすい社会になることはステキです。新居浜市でも県立とはいえ、肢体不自由児者(身体障がい者)のための学校が出来るのですから、日本一の支援学校になるよう今から楽しみにしています。そして障がいのある人にもない人にも日本一のまちになるよう希望しています。一人の市民として、そのための努力はおしみません。

参 考 資 料

平成24年度実施事業の自己評価等

平成24年度実施事業の自己評価等

(社会教育課)

事務事業名	事業の概要	事業の内容 (成果、結果、執行状況等)	自己評価
1 学校支援地域本部推進事業	地域全体で学校教育を支援するための、学校と地域との連携体制の強化を図り、地域住民が社会教育で学んだ成果を生かす場を提供し、地域活動及び地域教育力の活性化を目指す。(委託事業)	市内13校区(新居浜、宮西、金子、金栄、浮島、垣生、神郷、多喜浜、泉川、中萩、船木、大生院、角野)において、公民館を拠点に、校区内の見守り活動や学校活動の支援に、地域のボランティアによる活動を推進した。 ・ボランティア活動参加延人数 32,444人	C
2 放課後子ども教室推進事業	地域社会の中で、放課後に子どもたちが安心して活動できる場の確保を図るとともに、次世代を担う児童の健全育成を目指す。(委託事業)	市内7公民館(金子、金栄、高津、多喜浜、泉川、大生院、若宮)、総合福祉センター及び教育会館で放課後子ども教室を開催し、伝統文化継承活動、野外活動及び地域住民との交流活動等に取り組んだ。	C
3 新しい公民館創造プロジェクト事業	従来の公民館事業を再検討し、新しいスタイルの公民館事業を創造するとともに、より多くの住民が公民館活動に参加し、住民主体で企画運営できる公民館を目指す。(委託事業)	地域課題解決につながる事業、住民のニーズにあった事業等を展開しながら新しい組織、体制づくりの推進を図ることができた。 ・講座開設数 163件 ・参加者数 48,870人	C
4 公民館管理運営費	社会教育法第21条の規定に基づき、市民の教養の向上、健康の増進及び情操の純化を図るため、適正な公民館の管理運営に努める。	電気・ガス・水道等の光熱費、公民館活動において必要な消耗品費、施設修繕費等の経費で、公民館利用者が快適に公民館を使用できるよう管理運営に努めた。	C
5 公民館職員研修事業	各種研修を通して、職員等の資質を向上させ、魅力ある講座の提供等公民館活動の活性化を図る。	各種研究大会等に参加し、先進的事例を学ぶことにより、新たな事業に取り組む公民館が増えた。また、地域主導型公民館の職員を育成し、新たなまちづくり、地域づくりを推進できた。 ・研修派遣人数 83人	B
6 公民館施設環境整備事業	住民の地域づくりの拠点として、より安全快適な施設環境を作り、市民サービスの向上に資する。	公民館施設の維持管理及び修繕により、利用者がより安全で快適に利用できる環境が整備できた。 ・施設修繕実施件数 16件	B
7 成人式開催事業	成人としての自覚を持ち、自ら新しい門出を楽しみ、かつ、生まれ育った地域からの祝福を感じることができる成人式典を開催する。	昨年度に引き続きアトラクションでは、新居浜市出身でミュージシャンとして活躍されている先輩に出演していただき、新成人に対して故郷新居浜への思いや抱負などのメッセージを送った。 ・参加者数 770人(65.5%)	D
8 こども夢未来事業	新居浜市の子どもたちが、ふるさとに愛着を感じ、郷土に誇りを持つことができるような活動を実施し、子どもたちの豊かな心を育み、知的好奇心や探究心を育てる。	「とっておきの新居浜検定～ジュニア～」、「防災学習リーダー研修」を実施。 ・延べ参加者数 38人	C

9	学校開放事業	学校教育に支障のない範囲において、スポーツ活動の場を提供することで、体育及びスポーツの振興並びに健康で文化的な生活の向上に寄与する。	地域住民の方がスポーツをするために必要な器具等の購入・修繕及び夜間の学校開放事業に必要な照明設備の維持管理を行った。 ・学校の体育施設開放利用者数 383,636人	B
10	こころのことばコンクール事業	子どもたちが日頃抱えている悩みや将来への期待、夢など、様々な心のメッセージを綴ってもらうことで子どもの表現する力を育み、大人の子どものに対する感性や受容力を高めることを目的に実施する。(新居浜中央ライオンズクラブ共催事業)	小中学校に募集を呼びかけ、優秀作品の発表及び表彰式を開催した。 ・応募点数 小学校 428作品 中学校 447作品	C
11	別子ハイツ自然学習館管理事業	別子ハイツ自然学習館の施設・設備の適正な保守及び維持管理を図り、利用者が安全で快適に施設を利用することができる環境をつくる。	安全で快適な教育環境の確保に努め、設備の保守管理及び故障箇所の修繕をしながら、適正な維持管理を行った。 ・延べ利用者数 2,142人	C
12	新しい公共支援事業	各々の地域の諸課題を市と市民団体等が多様な担い手とともに協働して地域の諸課題に当たる仕組みを立ち上げ、新しい公共による取組みを進める。(委託事業)	別子校区連合自治会による地域課題解決活動創出支援事業「別子山：限界集落なんて呼ばせない！絆プロジェクト」を実施し、校区内外の交流と、地域住民参加の活動の展開に取り組んだ。 ・活動参加延べ人数 1,225人	B
13	省エネルギー対策事業	エネルギー消費原単位を年1%以上低減させることを目標とする。そのため、事業場ごとにエネルギー使用の合理化を図るための判断基準を示し、各施設管理を行う。	各課所への啓発により「定期報告書」、「中長期計画書」、「管理標準」の活用の仕方についての理解を深めた。	C
14	放課後児童クラブ運営事業	就労、疾病等のため、昼間家庭において保護者の監護を受けられない小学1年生から3年生を対象として、生活や遊びの場を提供し、健全な育成に努める。	大島、別子山校区を除く16校区に22クラブ開設している。平成24年度当初の登録児童数は約980人、1か月間に5日以上の利用者数は、平均794人であった。	B
15	放課後児童クラブ運営補助事業	就労その他の事情により、昼間家庭において保護者の監護を受けられない小学生を対象として、民間が運営する児童クラブに補助金を交付する。	直営のクラブでは対応できない時間延長や、日曜日、祝日の利用にも柔軟に対応し、保護者の就労支援と児童の健全育成を図った。	B
16	放課後児童クラブ障害児対策事業	放課後児童クラブを利用している障がいを持つ児童に対し、指導員の加配を行う。	障がい児の入会希望は増加傾向にあり、可能な限り受入れを行うに伴い、加配指導員を配置することで、障がい児に目が届きやすくなり保護者の就労支援と児童の健全育成が図れた。 ・加配指導員 3人	B

17	生涯学習大学の開設	<p>市民一人一人が自主的に参加し、自らの意思で選択し、受講できる生涯学習大学を開設している。</p> <p>愛媛大学、松山大学、新居浜高専、総合科学博物館等から講師を招き、市民の高い学習意欲に応える講座等を幅広く開設し、市民スタッフとの協働により運営している。</p>	<p>市民との協働による講座開設が推進され、生涯学習のまちづくりに向けた学習機会を提供することができた。また、これにより、まちづくりへの意識の向上が図られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座開催回数 132回 ・延べ参加者数 6,224人 	C
18	高齢者生きがい創造学園講座開設	<p>おおむね50歳以上の者を対象にして、その生きがいづくりと健康・自立を目指す学習ニーズに応えられるよう講座を開設して、学習機会の提供、各種情報の収集・提供やボランティア活動・サークル活動の促進を図る。</p>	<p>高齢化が急速に進展する社会の中で、学ぶ喜びを共有することによって生きがいを見つける学習機会を提供することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座開催回数 190回 ・延べ参加者数 4,265人 	C
19	青少年健全育成強調月間等啓発事業	<p>小、中、高校生を対象に健全育成標語を募集し、その入選作品を発表することにより、健全育成についての意識向上を図る。</p>	<p>市政だよりに青少年健全育成に関する特集を2回掲載した。小、中、高校生を対象に健全育成標語を募集し、入選作品を市政だより、ホームページに掲載、ポスターを小、中、高校及び公民館等の施設に掲示した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標語応募総数77編(小42, 中29, 高6) ・最優秀3編 優秀5編 佳作12編 	B
20	少年補導委員研修事業	<p>少年補導委員が各種研修を受けることにより、少年非行の現状及び青少年の特性を理解することを通じ、補導技術の向上及び意識の高揚を図る。</p>	<p>より効果的な補導活動を目指し、各種研修事業の実施及び参加を促す。また、他市の取組を補導活動に活かすことが出来た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係施設研修1回、市少年補導委員研修大会1回開催 ・四国大会等各種研修会へ4回参加 	B

平成24年度実施事業の自己評価等

(学校教育課)

	事務事業名	事業の概要	事業の内容 (成果、結果、執行状況等)	自己評価
1	教育懇談会	中学校区ごとに開催し、教育行政や各校区の取組方針の説明や質疑応答、学校・保護者・地域住民の方との意見交換を行うことにより、教育への関心を高める。	中学校区ごとに子どもたちの学力の向上について、参加者全員(グループ討議を含む)で話し合う。 ・総参加者数703人(前年度比112人の増加)平成24年5月29日～10月4日	B
2	子ども会議	児童・生徒の視点から出された意見を教育施策に反映させるため、学校生活や日常生活をテーマとして意見交換を行う。また、優れた内容で実現可能な意見に対しては、「新居浜市こども夢未来基金」を活用して事業実施に向けて予算措置等を講ずる。	平成24年7月29日(日)に各小中学校の児童生徒代表が集まり、「小・中学校の絆(きずな)を深める」をテーマに自分たちにできること、学校や家庭に望むこと、教育委員会に望むこと等意見交換を行った。	B
3	新居浜市小・中学生科学奨励賞	身近な出来事、人、物、自然とのかかわりの中で不思議に思い、興味を持って考え、調べたことについて、生活科、総合的な学習の時間等で行った研究を発表会で賞揚する。発表会の参加者は、学校関係者がほとんどのため、より多くの市民に参加してもらう方策を考える。	市内小中学校で7月から11月まで募集し、一次・二次審査会を経て、発表会を開催した。応募数も多く、科学に対する関心が高まっており、発表内容も質の高いものであった。なお、今年度から後援者の同意を得て過去に最優秀か優秀を5回以上受賞した3名へ特別賞(あかがね賞)を授与した。 ・発表会 平成25年1月12日 ・作品ロビー展 平成25年1月5日～同月12日 ・応募総数 3,870点(小学校1,481点中学校2,389点)特選9点、優秀13点、入選28点	B
4	子ども環境サミット	環境保全に向けた実践を推進するとともに、各学校や家庭等で取り組んでいる環境教育の交流を深め、進んでよりよい環境づくりに取り組もうとする子どもを育成する。	廃プラスチックを再び石油へ戻す実験等を参加者全員が体験する。 ・総参加者数116人(児童54人、保護者9人、教員40人、教育委員会関係者13人)	B
5	奨学金	【奨学金】本市に3年以上在住する者の子弟であって、学業優秀、性行が善良、身体が健康、学資の支弁が困難な者のうち、高等学校、高等専門学校、大学(短大を含む。)、大学院、専修学校(専門課程)に在学する者及び海外留学生に対して、奨学金の貸付・給付事業等を行う。 【入学準備金】高等学校、高等専門学校に入学しようとする者の保護者で、入学準備金の調達が困難な者について貸付事業を行う。	奨学資金の貸付(新居浜、青野記念、特別、入学準備金)、奨学資金返還者に対する返還通知書の送付、基金から生じる運用収益金の基金への繰出 ・平成24年度貸付状況 新居浜 22人 5,610千円 青野記念 4人 1,536千円 (うち給付金768千円) 特別 2人 660千円 (うち給付金220千円) 入学準備金 3人 150千円 ・預金利子等の運用収益金 新居浜 27,722円 青野記念 61,858円 特別 23,505円 入学準備金 873円	B

6	いじめ・不登校問題等対策費 (適応指導教室)	適応指導教室「あすなる教室」を開設し、いじめ・不登校等を原因として学校や社会に適応できない児童生徒に対し、個々に応じた学習指導や体験活動を実施することにより、学校への復帰と社会への適応を図る。また、児童生徒・保護者からの相談や家庭への訪問相談を実施し、それぞれの悩みや不安の解消を図る。	15名(児童2名・生徒13名)が入級し、適応指導教室の活動を通じて2名が中学校に復帰し、中学3年生2名全員が県立・私立高校へ進学することができた。また、カウンセリング、体験活動、来所や電話による相談活動、進路説明会等を実施し、不登校問題等の解消に向けた取組が行われた。 ・事業費10,833,549円(うち県補助金590,000円)	C
7	中学生海外派遣研修事業	平成19年度から「フランクリン=新居浜 生徒交流プログラム」の実施協定に基づき、本市の中学生とフランクリン高校生等との相互交流を実施している。現地でのホームステイ、学校訪問、社会見学等を通じて異国(米国)の人々との交流と異文化理解を図ることにより国際理解を深め、豊かな国際感覚と日本人としての自覚等を身に付け、国際社会に貢献できる人材の育成と友好親善の絆を図る。	10月27日から11月6日までの間、中学生21名(引率指導者：2名)の訪問団員がフランクリン市(米国ウィスコンシン州)において国際交流を実施した。現地の中学・高校生との相互交流を通して、それぞれの国の文化、経済、生活習慣、国民性等の違いを直接、肌で感受することができた。また、本年度はフランクリン市の中・高校生が来市し、市内の小中学校を訪問、ホームステイをし、一層の国際交流を図ることができた。 ・事業費：5,606,505円(うち個人負担金@42,000円×21名)	B
8	生きた英語教育推進事業	外国語指導助手(A L T)3名英語指導員3名を小中学校へ派遣し、外国の文化への興味・関心を高めるとともに、国際理解教育の充実と英語力の向上を図る。	中学校ではT T(ティームティーチング)でコミュニケーション活動のアドバイス、英文作成等の個別指導を、小学校では英語を楽しむ、好きになることに重点をおいた活動を行った。	C
9	小学校教育充実費	義務教育に必要な経費は、憲法第26条第2項の規定により無償とすることとされているが、特定児童に還元される費用、P T A活動の費用等保護者が負担する学校運営上必要な経費の内一部について公費で負担し、保護者の費用負担の軽減を図る。	教材用紙、準教科書、理科実験等に要する消耗品の購入、社会見学・音楽コンクールに要するバス等借上料、学校図書館図書購入等を公費負担し、保護者の費用負担の軽減を図った。	C
10	中学校教育充実費	義務教育に必要な経費は、憲法第26条第2項の規定により無償とすることとされているが、特定生徒に還元される費用、P T A活動の費用等保護者が負担する学校運営上必要な経費の内一部について公費で負担し、保護者の費用負担の軽減を図る。	教材用紙、準教科書、理科実験等に要する消耗品の購入、ふるさと学習・音楽コンクールに要するバス等借上料、学校図書館図書購入等を公費負担し、保護者の費用負担の軽減を図った。	C

11	小学校施設環境整備事業	市内小学校18校の施設については、老朽化が進み、改修の必要な箇所が多くある。これらについては、危険度の高い所から優先的に対応し、安全で快適な教育環境を確保する必要がある。また、設備の適正な維持管理も必要である。	安全で快適な教育環境を確保するために、施設・設備の不良個所を改修し、施設環境の整備・維持に努めた。 ・工事6件、修繕68件	C
12	中学校施設環境整備事業	市内中学校12校の施設については、老朽化が進み、改修の必要な箇所が多くある。これらについては、危険度の高い所から優先的に対応し、安全で快適な教育環境を確保する必要がある。また、設備の適正な維持管理も必要である。	安全で快適な教育環境を確保するために、施設・設備の不良個所を改修し、施設環境の整備・維持に努めた。 ・工事4件、修繕51件	C
13	小学校耐震補強対策事業	耐震補強の必要な市内小学校17校の校舎・体育館55棟について、平成18年度から平成24年度までの7か年計画で耐震補強工事を実施し、安心・安全な施設とする。	校舎8棟(3校)の耐震補強工事を実施し、全ての計画を完了した。	C
14	中学校耐震補強対策事業	耐震補強の必要な市内中学校11校の校舎・体育館20棟について、平成18年度から平成24年度までの7か年計画で耐震補強工事を実施し、安心・安全な施設とする。	校舎1棟(1校)の耐震補強工事を実施し、全ての計画を完了した。	C
15	小学校教育用コンピュータ整備費	情報化社会に対応するために、文部科学省が教育用及び校務用パソコンの整備基準を定めており、これに基づき各小学校のパソコン、ソフト、周辺機器等の環境整備を図る。	各小学校におけるICT環境の整備により、児童の情報活用能力の育成が促進され、また校務の効率化及びセキュリティの強化が図られた。	C
16	中学校教育用コンピュータ整備費	情報化社会に対応するために、文部科学省が教育用及び校務用パソコンの整備基準を定めており、これに基づき各中学校のパソコン、ソフト、周辺機器等の環境整備を図る。	各中学校におけるICT環境の整備により、生徒の情報活用能力の育成が促進され、また校務の効率化及びセキュリティの強化が図られた。	C
17	小学校教育研究県指定校事業	研究指定校・推進校の指定を受け、指定事業に係る実践的研究を実施することにより教職員の指導方法の工夫改善や資質の向上を図る。また、児童の学習に対する興味・関心を高め、主体的に取り組む児童の育成を図る。	3事業について、当初の事業計画に基づき、事業目的に沿った事業の実施及び予算執行ができた。 ・「森はともだち」推進事業 船木小：県補助事業 300,000円(補助率10/10) ・学校力アップ実践研究事業 神郷小：県補助事業 150,000円(補助率1/2) ・環境教育推進事業 泉川小：県補助事業 150,000円(補助率10/10)	C

18	夢広がる学校づくり推進事業	<p>新学習指導要領の理念である「生きる力」を育むため、学校・家庭・地域が連携し、地域の実情や学校・児童の実態に応じて、各学校が創意工夫をし、地域に開かれた特色ある学校づくりを推進する。</p>	<p>平成24年度は小学校12校・中学校1校で、各学校独自の創意工夫された事業展開が図られた。児童生徒が自ら考え、主体的に判断し、表現・行動できる力を育み、自立した社会人としてたくましく生きていく基礎を培うことができた。</p>	C
19	小学校ハートなんでも相談員設置事業	<p>児童を取り巻く社会環境が著しく変化する中で、学校や家庭生活、人間関係等における悩みや不安、ストレス等が生じている。小学校に児童、保護者、教職員等に対して相談活動を行う「ハートなんでも相談員」を配置することにより、悩みや不安等を和らげ、問題行動・不登校等の未然防止と早期発見・早期解決を図る。</p>	<p>気軽に悩み等を相談できる人が校内にいるという存在価値は大きく、些細な相談内容からも、いじめ・問題行動・不登校等の未然防止と早期発見・解決につながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成24年度配置校…10校 事業費2,240,000円(うち県補助金：980,000円) 	C
20	中学校ハートなんでも相談員設置事業(スクールカウンセラー設置)	<p>生徒を取り巻く社会環境が著しく変化する中で、学校や家庭生活、人間関係等における悩みや不安、ストレス等が生じている。中学校に生徒、保護者、教職員等に対して相談活動を行う「ハートなんでも相談員」を配置することにより、悩みや不安等を和らげ、問題行動・不登校等の未然防止と早期発見・早期解決を図る。</p>	<p>気軽に悩み等を相談できる人が校内にいるという存在価値は大きく、些細な相談内容からも、いじめ・問題行動・不登校等の未然防止と早期発見・解決につながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成24年度配置校…5校 事業費2,100,000円(うち県補助金：700,000円) <p>※配置校以外はスクールカウンセラーを配置(県直接経費)</p>	C
21	いじめ・暴力から身を守る学習事業費	<p>いじめや児童虐待等児童を取り巻く社会的諸問題・事件が後を絶たず発生している。子どもたちに自分の大切な「心」と「からだ」を守るために何ができるかを児童・保護者・教職員がそれぞれの立場で考えていく人権教育プログラム(子どもへの暴力防止(CAP)プログラム)を実施する。</p>	<p>「CAPにいはま」の協力により小学4年生全児童を対象とした「子どもワーク」、保護者や地域の方を対象とした「おとなワーク」を実施した。また23年度に引き続き東予児童相談所から講師を招き、「教職員ワーク」として児童虐待等をテーマに講演会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業費890,000円 	C
22	私立幼稚園私学助成費	<p>核家族化、少子化が進行し、地域における子育て支援の取組が必要となってくる中で、市内の幼児教育の大部分を担っている私立幼稚園は、就学前における人間形成の基礎となる重要な時期であり、大きな役割を果たしていることから、財政的に脆弱な私立幼稚園の運営に対し助成を行い、本市の就学前教育の充実に図る。</p>	<p>市内私立幼稚園9園に対して運営の助成を行うことにより、教育条件の維持向上並びに保護者の経済的負担の軽減及び幼稚園経営の健全化が図られ、本市の幼児教育の充実がなされた。</p>	B

23	スクールソーシャルワーカー活用事業	いじめ・不登校・暴力行為・児童虐待など児童生徒に係る問題行動等へ対応するため、社会福祉等の専門的知識・技術を用いて児童生徒や保護者等の相談に応じたり、関係機関とのネットワークを活用して問題を抱える児童生徒等に支援を行うSSWを配置・活用することにより、児童生徒に対する効果的な働きかけ、関係機関との連携、学校への支援の在り方等について調査研究する。	適応指導教室「あすなる教室」を拠点として、元・小学校教諭を配置し、同教室通級生等に対する相談活動や自立支援を行うとともに、家庭訪問などを通じて不登校・問題行動の児童生徒・保護者への対応・支援を行った。 ・事業費324,000円（うち県補助金：194,000円）	C
24	中学校スポーツトップアスリート事業（運動部活動競技力向上事業）	本市の中学校の運動部活動の競技力向上、体力増進などのレベルアップを狙い、長期的展望に立ち、将来的には低迷する国民体育大会で活躍できる選手育成や選手強化を目指す。また、中学校教諭が顧問や監督を行っているという現状から、より専門的な指導技術を学ぶことなどにより、多くの指導者や生徒たちに還元していく。	平成24年度は対象種目をバドミントンとし、「元オリンピック日本代表 現ナショナルチームコーチ」舛田圭太さんを講師に招き、計5回実施した。専門的かつ効果的な練習方法を習得することにより競技力の向上及び指導者の指導力向上にも大きく貢献した。成果としては平成24年度愛媛県新人体育大会において、団体戦では中萩中女子が優勝、同中男子が準優勝、個人戦では女子シングルス、同ダブルスで優勝などの成績を残した。	C
25	中学校指導図書改訂事業	平成24年度から中学校の新学習指導要領が完全実施され、全教科に新しい教科書が採択されている。これに伴い、新しい教科書に対応した教師用指導書等の購入費を各中学校に予算配分する。	各中学校に新しい教科書に応じた教師用指導書が配備され、教員の教材研究や新学習指導要領に基づく生徒へのより適切な学習指導の充実が図られた。	B
26	幼稚園県研究指定事業	研究推進園の指定を受け、指定事業に係る実践的研究を実施することにより教職員（幼児教育）の指導方法の工夫改善や資質の向上を図る。また、園児の健やかな成長と豊かな感性を育む。	事業目的に趣旨に沿った園児の体験活動、講演会等の開催、実践的な調査研究を行い、適切な予算執行ができた。 ・「森のようちえん」推進事業 王子幼稚園：県補助事業 300,000円（補助率10/10）	C
27	社会科副読本発行費	平成23年度から小学校の新学習指導要領が完全実施され、全教科に新しい教科書が採択されている。これに伴い、新しい社会科の教科書に対応したものとなるよう社会科副読本「わたしたちの新居浜市」を全面改定する。	平成25年度から平成28年度までの小学3・4年生全員に配布できるよう6,000部印刷した。なお、平成29年度には教科書の見直しに合わせ部分改訂を行う。	B

28	いじめ対策総合推進事業（義務教育課程研究県指定校費）	<p>「いじめ、不登校を生まない楽しい学校づくり」を最重要課題に掲げ、「小・中学校連携に係る実践研究」として指定小・中学校教職員の活動交流、情報交換、児童生徒の合同活動の実践、学校満足度アンケート調査・心理検査（Q-U）の実施とその効果的な活用、「児童生徒を守り育てる協議会」（ネットワーク）を通しての学校・家庭・地域が一体となった取組の実践研究を行う。</p>	<p>当初の事業計画に基づき、事業目的に沿った事業の実施及び予算執行ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進校（指定校）：東中学校・高津小学校・浮島小学校（東中学校区）、泉川中学校・泉川小学校（泉川中学校区） ・県委託事業 700,000円（県支出金700,000円） 	C
29	魅力ある学校づくり調査研究事業（義務教育課程研究県指定校費）	<p>「いじめ、不登校を生まない楽しい学校づくり」を最重要課題に掲げ、「小中連携」「小小連携」による教職員間・児童生徒間の相互交流の実施、授業交流の実施等事業改善、特別活動の充実による集団づくりについての調査研究と実践を行い、児童生徒自らが直面する問題に対する耐性力、自ら考えて実行する力（行動力）や自己の考えや思いを伝える力（コミュニケーション能力）を高めることにより、不登校等の未然防止と中一ギャップの解消を図る。</p>	<p>当初の事業計画に基づき、事業目的に沿った事業の実施及び予算執行ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進校（指定校）：南中学校・金子小学校・金栄小学校（南中学校区） ・県委託事業 992,000円（県支出金992,000円） 	C

平成24年度実施事業の自己評価等

(スポーツ文化課)

事務事業名	事業の概要	事業の内容 (成果、結果、執行状況等)	自己評価
1 青少年育成スポーツ活動費	研修会やスポーツ大会を通じて運動、スポーツをする契機づくりとそれを行う指導者を育成する機会を増やし、スポーツの普及、振興や青少年健全育成と地域の連帯性の強化を図る。	指導者研修会(指導者・保護者が指導法やルールを学ぶ。)、ミニバスケット、ソフトボール、サッカー、バレー(各種目2回実施)スポーツ大会の開催。4種目計925人が参加。	C
2 各種全国大会出場奨励金	昭和58年に制度化されたもので、全国大会等に出場する選手たちへの奨励的補助金となっていたが、平成22年度から全国大会等に出場する選手に報奨金を支出している。	平成24年度は全国大会等に延べ471人(43件)の選手及び指導者が参加しており、スポーツの振興と競技力の向上が図られスポーツの盛んな新居浜市としてのPRができた。	B
3 体育施設環境整備事業	市民体育館他16箇所の体育施設を設置しているが、スポーツの盛んなまちづくりを推進するため、各施設の維持管理、補修、改修等を実施した。平成18年度から(財)新居浜市文化体育振興事業団が指定管理者として、適正な管理運営を実施している。	市民体育館競技場フロアの研磨の実施、市営野球場の防護マット等の改修を行った。また、施設管理に要する備品類の充実を図った。	B
4 体育施設建設基金	体育施設建設資金の確保を目的として、昭和47年9月「新居浜市体育施設建設基金条例」を制定し、基金元金の計画的な増額、当該年度、基金運用利子の積立てを行ってきた。市民体育館・市営野球場・山根体育館その他の設備資金として本基金を取り崩し活用している。	基金の設立の目的に応じた、確実かつ効率的・計画的な運用、基金の増額を行った。平成25年3月31日現在692,173,453円で、平成24年度は、基金運用利子287,650円を積み立てた。	A
5 文化財保護事業	文化財の保護と活用を図るため、必要性・緊急性の高いものから順次調査や修理(補助金交付)を行う。	周知の埋蔵文化財包蔵地内における民間開発に伴い、試掘調査(4件)を行った。また、滝の宮遺跡2次発掘調査報告書を作成した。	B
6 芸術文化振興費	子どもが身近な施設で芸術活動が体験できる機会を提供した。	・学校出前コンサート 4校 ・芸術文化出前講座 14校	A
7 文化施設環境整備事業	文化施設の施設修繕等を行い、適正な施設の管理運営と利便性の向上及び快適な使用環境の提供に努めた。	文化センター耐震診断及び補強設計を実施した。また、文化センター中ホール舞台幕引きレール延長工事を実施した。	C

8	文化振興基金	市民文化施設の建設及び芸術文化資料の収集の資金の確保を目的として、昭和60年3月「新居浜市文化振興基金条例」を制定し、基金元金の計画的な増額、当該年度基金運用利子の積立てを行ってきた。元金の増額、運用利子の積立てを行い、文化施設の建設及び芸術文化資料の収集が可能な資金の蓄積を図る。	基金の設立の目的に応じた、確実かつ効率的・計画的な運用、基金の増額を行った。平成25年3月31日現在1,831,717,949円で、平成24年度は、基金運用利子320,935円を積み立てた。	A
9	国民体育大会開催対策費	愛媛国民体育大会に向けて、情報収集を図り、施設整備や国体開催までの準備を行う。	ぎふ国体へ視察を行った。(セーリング、軟式野球、少年サッカー、ウエイトリフティング)	B
10	国民体育大会振興費	平成29年に開催される愛媛国体に向けて、本市選手の強化、育成及び指導者の充実を図る。	新居浜市体育協会に補助金を支出し、指導者の育成及び選手強化を図った。また、国体開催啓発用横断幕を作成し、市民への周知を図った。	B
11	スポーツ推進計画策定事業	本市におけるスポーツ推進の指針となる「スポーツ推進計画」を策定する。	市民から無作為抽出した2,000人を対象としたアンケート調査を実施し、市民のスポーツに対する意識調査を実施した。	B
12	親子コンサート開催事業	市制75周年記念事業として普段クラシックのコンサートに入場できない子どもに生の演奏を体験してもらうとともに、親子で楽しい時間を過ごす機会を提供する。	0歳から入場できるクラシックコンサート「音楽の絵本」を開催した。 ・有料入場者数 674人	B
13	郷土美術館充実事業	地域作家を調査研究し、優れた作品を紹介するとともに、他の文化施設との連携を密にして、よりハイレベルな作品等の紹介を行い、市民の文化度の向上・発展に寄与する。	・企画展「西原 元 ・美と幻想の世界」(1月11日～1月20日) 入場者数 1,547人 ・「文化教室成果発表会」(3月7日～3月17日) 入場者数 741人	A
14	近藤勝也展開催事業	市制75周年記念事業として、地域の優れた文化・芸術、さらにはよりハイレベルな作品の紹介を行い、全市民的な文化の向上発展に寄与するため、新居浜市出身で、本市の観光大使に任命されているアニメーター近藤勝也氏の特別企画展を開催する。	近藤勝也展の開催で、13,717人の入館者(開館以来過去最高)があり、多くの市民に、近藤勝也氏の紹介ができた。普段美術館へ足を運ばない層へも、新居浜市の文化活動を提供することができた。	A
15	広瀬歴史記念館充実事業	旧広瀬邸の重要文化財指定、別子銅山の世界遺産登録へ向けての取組などにより、近代化産業遺産に対する注目度が高まりつつある。さらに市民の認知度を高め、理解を深めるため特別企画展を開催する。	・特別企画展「広瀬家ゆかりの名品―書画を中心として―」(10月28日～12月2日) 入館者数 1,930人	B

平成24年度実施事業の自己評価等

(発達支援課)

	事務事業名	事業の概要	事業の内容 (成果、結果、執行状況等)	自己評価
1	小学校特別支援教育充実費	障がい、発達に課題等のある児童が持つ能力や可能性を最大限に伸ばし、将来社会で自立し、社会参加できる基礎となる「生きる力」を培うために特別支援教育の充実を図る。	特別支援学級指導員(3人)、学校生活介助員(46人)及び学校支援員(9人)を配置。通学区域外の自閉症・情緒障がい学級に通学する児童(5人)へ通学費の一部補助を実施した。	B
2	中学校特別支援教育充実費	障がい、発達に課題等のある生徒が持つ能力や可能性を最大限に伸ばし、将来社会で自立し、社会参加できる基礎となる「生きる力」を培うために特別支援教育の充実を図る。	学校生活介助員(22人)を配置。通学区域外の自閉症・情緒障がい学級に通学する生徒(1人)へ通学費の一部補助を実施した。	B
3	発達支援教育運営費	乳幼児期から就労に至るまでのライフステージに応じたケアプランを作成し、そのプランに基づく適切な支援及び医療、保健、福祉、教育、労働等の関係機関の連携強化など地域における発達支援システムの整備を図る。	地域における発達支援の中核的機関として設立したこども発達支援センターを中心に、総合相談、発達検査、早期療育などのほか、関連する施設や機関へのコーディネートや連携業務を実施した。 ・個別の支援計画作成件数(119件)	B
4	発達支援教育充実費	障がい、発達課題等のある子どもが地域で自立した生活ができるように、各幼稚園、保育園及び小中学校と連携を強化しながら就学前、学齢期における早期発見、継続支援、地域における早期療育体制の整備充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談(対象388件)、総合相談(延べ1,446件)、講演会(年2回)、スキルアップ連続講座(年2回)。日常生活における集団生活への適応訓練等の指導及び療育を実施。 ・ことばの教室(登録107人、延べ通園1,070人)、育ちの教室(登録51人、延べ通園855人) ・ソーシャルスキル支援事業(延べ参加者98人) ・聴覚障がい児相談事業(延べ参加者19人) 	C
5	幼稚園特別支援教育充実費	障がい、発達に課題等のある幼児が持つ能力や可能性を最大限に伸ばし、就園機会の拡大と将来社会で自立し、社会参加できる基礎となる「生きる力」を培うために特別支援教育の充実を図る。	公立幼稚園に学校生活介助員(4人)を配置。障がいがある幼児が在籍する私立幼稚園(3園)が実施する特別支援教育事業に一部補助金(幼児1人に月額3万円)を交付した。	C

平成24年度実施事業の自己評価等

(学校給食課)

	事務事業名	事業の概要	事業の内容 (成果、結果、執行状況等)	自己評価
1	給食運営事業	昭和23年から学校給食を実施しているが、各給食調理場の管理運営等を円滑に行う必要があるため、必要な人員の配置等を行っている。	調理員、栄養士等の配置、給食運営に必要な消耗品、燃料費、各調理場の器具修繕費及び保菌検査の実施費用の支出を行った。	C
2	学校給食センター管理運営事業	平成13年度に開所し、市内8中学校及び新居浜特別支援学校に、選択制により給食を提供しており、センターの運営に係る人件費等の適切な維持管理を行っている。	調理員、運転士、配膳員等に係る人件費、給食運営に必要な消耗品、燃料費、調理器具の修繕、施設修繕、配送車の維持管理等 ・平成23年度の選択率 89.3% ・平成24年度の選択率 91.8%	C
3	高津共同調理場管理運営事業	平成10年度に開所し、高津小学校及び東中学校に給食を提供しており、調理場の運営に係る人件費等の適切な維持管理を行っている。	調理に必要な消耗品の購入、燃料費、器具修繕等を行った。	C
4	給食運営改善事業	昭和23年から学校給食を実施しており、各給食調理場の厨房施設・設備の老朽化への対応のため、適正な維持管理及び更新・改善を行っている。	厨房関係施設・設備の修繕、改修及び食器等の更新を行った。 施設・設備の老朽化が進む中、要望、更新等の件数が増加しているため、全てに対応しきれていないのが現状である。	D

平成24年度実施事業の自己評価等

(図書館)

	事務事業名	事業の概要	事業の内容 (成果、結果、執行状況等)	自己評価
1	移動図書館運営事業	図書館から離れた地域、長期入院・施設入所など図書館利用の困難な方への貸出返却サービスを拡大するため、市内全域に移動図書館（青い鳥号）を巡回させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ステーション 市内30箇所(小学校12箇所、中学校2箇所、その他16箇所)を2週間に一度巡回し貸出返却(別子山地区、3箇所、月1回巡回) ・年間運行日数 159日 ・貸出点数59,409点(貸出点数374点/日) 	C
2	図書館利用促進事業	地域の情報拠点・学習支援施設として、市民の自主的、自発的な学習活動を支援するため、資料・情報の収集、提供及び学習機会の提供に努める。	計画的な図書資料購入及び除籍により蔵書の新陳代謝を進めると共に、テーマ展示やロビー展等により活発な情報提供を行った。また、「図書館まつり」や「夏休み行事」継続した「別子銅山に関する本の解説講座」等、図書館企画事業を工夫し、利用促進に努めた。7月から「雑誌スポンサー制度」を開始し、雑誌の充実を図った。(10事業者から15誌提供)	B
3	ブックスタート実施事業	保健センターの5か月児健康相談において、司書が説明の言葉を添えて絵本等の入ったブックスタートパックを手渡す。	親子に絵本の読み聞かせの大切さを丁寧に伝えながら手渡し、同時に図書館のPRや希望者には赤ちゃんの図書カードを発行し、図書館の利用促進を図っている。定期的に乳幼児向けのお話会を実施している。「本とあそぼう 全国訪問おはなし隊」を呼び、絵本に親しんでもらった。 <ul style="list-style-type: none"> ・パック配布人数 998人 ・配布率 94.9%。 	C
4	図書館施設整備事業	計画的に図書館施設の整備を行い、図書館利用者の安全性及び利便性の向上を図る。	経年劣化により老朽化していた電話設備の更新工事を実施し、電話設備の不良を改善した。	C
5	学校図書館支援推進事業	学校図書館支援員4名を小学校へ派遣し、学校図書館の環境整備、学習支援により、児童・生徒の利用促進を図る。	学校図書館を活用した授業や読書の時間に分類講座や辞典・図鑑の使い方の指導等の学習支援をすることにより、先生や子どもたちの図書館利用が活発になっている小学校が増加している。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援 1,057回 ・学習支援用図書貸出 4,424冊 	A
6	「笑顔輝く絵本ライブ」開催事業	市制75周年記念事業及び別子銅山記念図書館開館20周年事業として絵本作家 川端誠氏を招き「笑顔輝く絵本ライブ・講演会」を開催する。	子どもから大人まで絵本を通じて笑顔を届け、読書の楽しさ、大切さを認識することにより、読書推進を図ることができた。絵本ライブに併せて、川端誠氏の絵本を集めた企画展示を実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数 175人 	C

第 2 章

教育委員会活動報告

平成24年度の教育委員会の活動状況

1 教育委員会会議での審議等件数

(1) 定例教育委員会会議 12回

(2) 臨時教育委員会会議 0回

2 会議開催時期及びその他の活動状況

区分	会 議		その他の活動（表彰式等）
	教育委員会会議	その他の会議	
4月	定例会(4/3)		○第1回小中学校長会(4/11)
5月	定例会(5/10) (議案1件)		○学校訪問(5/2～7/5) ○新居浜市PTA連合会定期総会(5/12) 市議会(5/16) ○教育懇談会(5/29～7/9)
6月	定例会(6/7) (議案7件、報告1件)		○ふれあい運動会(6/1) 市議会(6/4～6/21)
7月	定例会(7/5) (議案1件)	○愛媛県市町教育委員会連合会定期総会(7/18)	○新居浜市中学生弁論大会(7/10) ○新居浜子ども環境サミット(7/27) ○小中子ども会議(7/29)
8月	定例会(8/2) (議案1件、選挙1件、指定1件)		○夢広がる学校づくり推進事業審査(8/30)
9月	定例会(9/4) (議案2件、報告1件)		市議会(9/4～9/21) ○中学校運動会(9/16) ○市民体育祭(9/20～11/4) ○小学校運動会(9/23) ○中学校英語スピーチコンテスト(9/27)
10月	定例会(10/3) (議案2件、報告1件)		○中学生海外派遣事業訪問団結団式、壮行会(10/12) ○中学生海外派遣事業訪問団出発式(10/27)

1 1 月	定例会(11/14) (議案2件)	○「えひめ教育の日」推進大会(11/1) ○平成24年度市町村教育委員会研究協議会(11/8、9)	○中学生海外派遣事業訪問団帰着式(11/6) ○小中学校人権・同和教育研究大会(11/20) ○各校区文化祭 ○小中学校音楽発表会(11/9)
1 2 月	定例会(12/6) (議案1件、報告1件)		市議会(12/4～12/20) ○こころのことばコンクール表彰式(12/16) ○中学生海外派遣事業報告会(12/16)
1 月	定例会(1/9)	○教育委員研修(1/25～1/27)	○平成25年成人式(1/13) ○小中学生科学奨励賞表彰式(1/12)
2 月	定例会(2/8) (議案3件)		○新居浜市PTA連合会研究大会(2/17) 市議会(2/25～3/22)
3 月	定例会(3/13～3/31) (議案13件、報告4件)		○中学校卒業式(3/15) ○小学校卒業式(3/22)

※教育委員会会議については、会議録を新居浜市のホームページに掲載

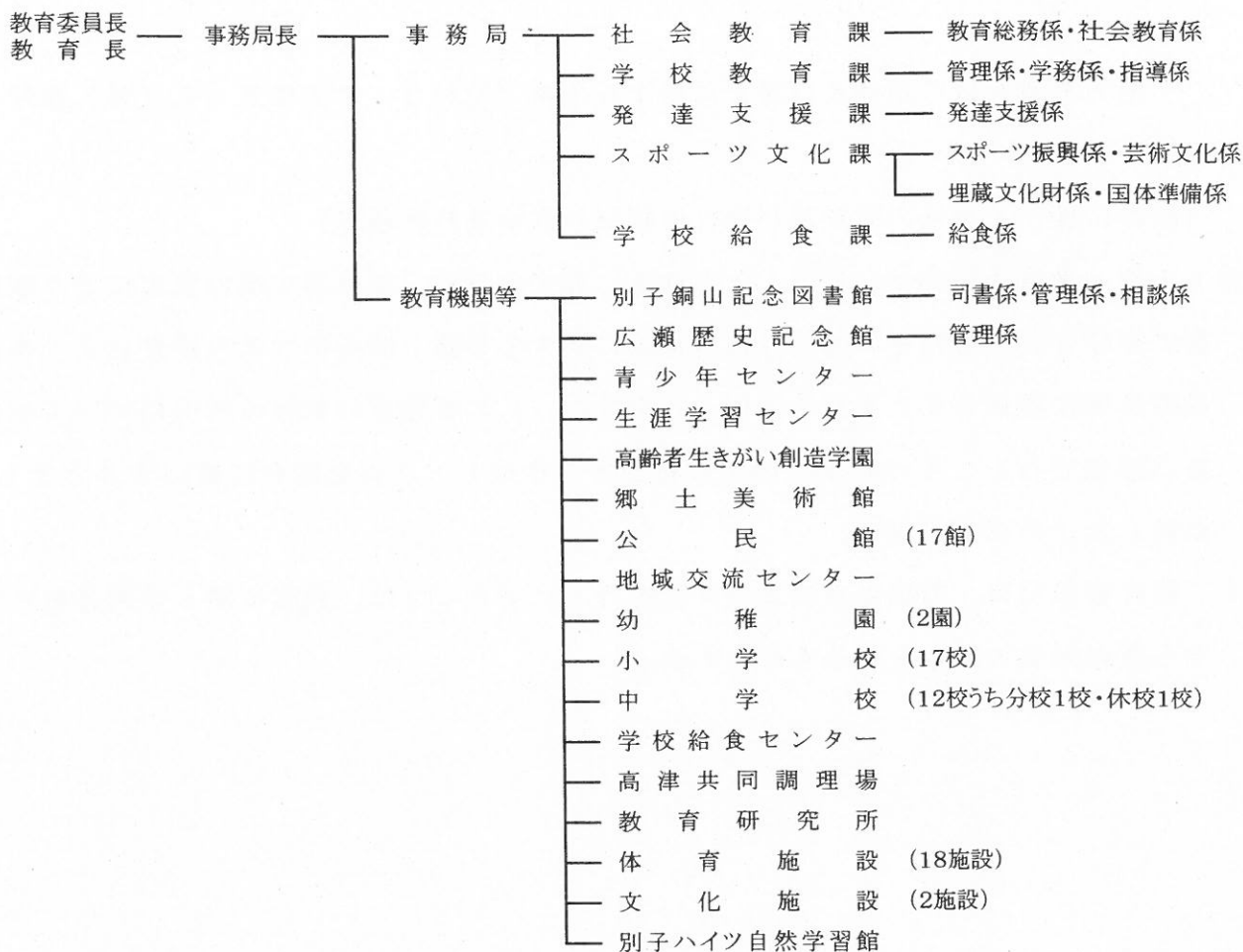
3 教育委員の就任状況（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

氏 名	役 職	摘 要	任期満了年月日
伊藤 嘉秀	委員長	H24.8.9 委員長選任	H26.12.23
宮内 文久	委員長職務代理者	H24.8.9 委員長職務代理者指定	H27.12.23
長野 美和子		H23.12.24 新任	H27.12.23
三木 由紀子		H21.6.27 新任	H25.6.26
阿部 義澄	教育長	H24.4.1 再任	H28.3.31

参 考 资 料

組 織 図

(平成25年5月1日現在)



職 員 数

(平成25年5月1日現在)

	定 数	現 員
事務局	45	42
教育機関	64	48

	課 所 別	職 員	臨時職員	非常勤職員	委託・再任用(短)	計
事務局	社会教育課	11	2	59	2	74
	学校教育課	13		10		23
	発達支援課	7		19		26
	スポーツ文化課	8	1		1	10
	学校給食課	3	1			4
教育機関	別子銅山記念図書館	9	8	8	1	26
	広瀬歴史記念館	2		4		6
	青少年センター	1	1			2
	生涯学習センター、高齢者生きがい創造学園		3	9		12
	郷土美術館		2	2		4
	公民館	1		69		70
	幼稚園	6	7	4		17
	小学校(県費教職員を除く。)	25	4	147	7	183
	中学校(県費教職員を除く。)			66		66
	学校給食センター		21	15		36
	高津共同調理場	4		11		15
	教育研究所			1		1
	計	90	50	424	11	575

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抜粋

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

平成 2 5 年度（平成 2 4 年度対象）新居浜市教育委員会点検・評価報告書

発行 新居浜市教育委員会

編集 社会教育課

お問い合わせ先

〒792-8585 新居浜市一宮町一丁目5番1号

電話：(0897) 65-1300 / Fax：(0897) 65-1306

E-mail：syakyou@city.niihama.ehime.jp

ホームページ：http://www.city.niihama.lg.jp/

発行 平成 2 5 年 1 1 月
